



「答え」の構成要素が多く、これまでの説明文にはなかった、指示語や接続語も多く使われ、文の構造も複文や重文が多く複雑になっている。

校外学習で行った葛西臨海水族園でみつけた「マグロのひれのひみつ」や「ヒラメとカレイの違い」についてなど、どの子も見つけてわかったことを、順序に気を付けて作文に書いていた。本教材「さけが大きくなるまで」もこれまで、切り身でしか目にしなかったさけの成長に驚き、興味をもって本文を読み進めるだろう。

そこで、『さけが大きくなるまで』を読んで、びっくりしたことや初めて知ったことをクイズにして友だちと出し合おう。」という言語活動を設定する。クイズ作りでは、主語が「さけ」であることをおさえ、そのさけが「いつ」「どこで」「どのように」「どうなるのか」の視点から問題作りに取り組ませていく。(例 問題 「大人のさけは、いつごろ、たまごをうみに、川へやってくるのでしょうか。」 答え「秋になるころです。’) 例のように、自分で「問い」と「答え」を本文から読み取ってクイズを作り、友だちと問題を出し合い、答え合うという言語活動は、目的意識をもって、主体的に本文を読み取り、問題を作るうえで重要な語や文を考えて選び出すことにつながる。このことから、本単元でねらう、(思考力, 判断力, 表現力等)「C 読むこと (1) ア ウ」の実現にふさわしい言語活動であると考えた。

本単元で付けた、「知識及び技能」「思考力,判断力, 表現力等」の力は、次単元「三 じゅんじょを考えてせつめいしよう『生きもののことをせつめいしよう』」、1月単元「六 作り方をせつめいしよう『きつつき』『おもちゃ大会をひらこう』」の学習で生きてはたらく力となる、資質・能力である。

## 5 主体的・対話的で深い学びの視点

### (1) 主体的な学びの視点

#### クイズ作りを通して

これまでに、1年生上巻「すずめのくらし」や「だれが、たべたのでしょうか」の説明的文章で「問い」と「答え」の関係について捉えてきた。また、「だれが、たべたのでしょうか」では、事実を示して、問題を作る活動にも取り組んでいる。しかし、本文を読んで、そこから、問題を作る活動は経験していない。そこで、教師がいくつか「さけが大きくなるまでクイズ」を作り、児童に答えさせ、自分でも作ってみたいという意欲をもたせたい。クイズ作りは、「さけが大きくなるまで」を読んで、びっくりしたことや初めて知ったことを中心に取り組ませる。本文を読んだ感動を原動力として、クイズ作りをすることが、主体的な学びの実現につながると考える。

クイズ作りでは、「いつ」「どこで」「どのように」「どうなるのか」を問う問題を作らせるようにする。問題を作るうえでの重要な語や文は以下である。

(「いつ」 順序を表す言葉)・・・黄色のカード

・秋になるころから、そして、やがて、冬の間、その時は、春になるころ、 など

(「どこで」「どこに」「どこを」「どこからどこへ」 場所を表す言葉)・・・緑色のカード

・海から川へ、三メートルぐらいのたき、川上へ川上へ、水のきれいな川上、すなや小石の川ぞこを、海にむかって川を など

(「どのように」「どのような」「どんな」 様子を表す言葉)・・・桃色のカード

・いきおいよく、三メートルぐらいのたきでものりこえて、おびれをふるわせて、ふかさが三十七センチメートルぐらいになると など

(「どうなるか」「どうするか」 行動を表す言葉 述語)・・・水色のカード

・すすんでいきます、川ぞいをほります、うめてしまいます、小魚になります など

問題作りの視点「いつ」「どこで」「どのように」「どうなるのか」によって、「問い」と「答え」を書くカードを色分けし、問題作りも自分の問題が「何を問う問題なのか」、意識して作るようにさせる。カードの表に「問い」を書き、裏に「答え」を書くようにさせる。その際、「答え」と合わせて、自分の「感想や疑問」なども書き加えるようにさせたい。このことが、読みを深め、更に読むことの意欲にもつながると考える。また、答える側にとっても、色分けされたカードから、何を問われているのか考えるヒントになるだろう。2年生の児童にとっては、まず、何色のカードに書いたら良いのか判断に迷う場合も考えられる。その場合は、白色のカードに書き、友達と問題を出し合う中で、何を問う問題なのか気付いていくことが、読みを深めることにつながると考える。

本文からクイズを作る場合、問題には必ず主語が必要となってくる。「さけ」といっても、それが、「大人のさけ」なのか、「メスのさけ」なのか、「さけのたまご」なのかを読み取り、「どのさけが、いつ、どうするのか。」「どのさけが、どこで、どうするのか。」「どのさけが、どのように、どうするのか。」「どのさけが、どうするのか。」を考えて取り出し、クイズを作ることで、(知識及び技能)でねらう「主語と述語の関係に気付くこと」につながり、(思考力、判断力、表現力等)「C 読むこと(1)ア ウ」の資質・能力の育成につながると考える。

始めは、問題作りに抵抗や戸惑いを感じる児童も予想されるが、問題作りに慣れてくると、もっと作りたいと意欲が湧いてくるだろう。そこで、問題作りは、帯(朝のドリルタイムや家庭学習など)として取り組ませ、主体的な学びを喚起していきたい。

## (2) 対話的な学びの視点

**対話形式で、クイズを出し合い、答え合う。**

児童はこれまでに、対話形式でお互いの考えや感想を述べたり、伝え合ったりする活動に多く取り組んできている。今年から教科として位置付けられた道徳では、対話によって、自分の考えや思いを相手と伝え合い、気付きを深める様子が見られる。本単元の『「さけが大きくなるまでクイズ」を作って、友達と出し合おう。』という言語活動は、児童にとって意欲的に取り組めるものと思う。「さけが大きくなるまで」は、10段落で構成され、問いの段落を含めて、大きく5つの意味段落で構成されている。また、本文の特徴として、さけの成長が循環していることが述べられているので、どの段落から読んでも読み進めることができる。そこで、学習の始めに、文章全体の構成を捉えた後、各自が一番心に残ったところから、クイズ作りに取り組ませていく。対話形式での話し合いは4回予定している。

1回目・・・同じ場面で感動した者同士でクイズを出し合い、答え合う。

同じ場面でも質問の視点を変えると3~4問は作れるので、お互いの質問に答え合うことで、読みが深まることが期待できる。

2回目・・・異なる場面で感動した者同士でクイズを出し合い、答え合う。(本時)

3回目・・・2回目同様、異なる場面で感動した者同士でクイズを出し合い、答え合う。

3回目は1、2回目の相手とは違う相手とクイズを出し合う。

4回目・・・3回目と違う相手とクイズを出し合う。

対話の相手を意図的に変えることで、個人の読みだけでは気付かなかった語や文にも目が向き、読みを広げたり、深めたりできると考える。対話の相手として、実態を考慮し、上位児童と中位

児童、中位児童と下位児童の組み合わせを考えている。

尚、児童の読みの意欲を大切に、学習を組むため、4回の話し合いは必ずしも本文の意味段落の順とは限らない。しかし、学級全体での話し合いの時間は、思考の混乱が起こらないように、本文の意味段落に沿って話し合う。

### (3) 深い学びの視点

#### 教師の指示や発問により学びの深化を図る

「さけが大きくなるまで」を読むことは、児童の知的好奇心を満たすことと論理的思考力を高めることにつながる。これまで、児童はいくつかの説明的文章に触れてきたが、この「さけが大きくなるまで」にふんだんに使われている表記は、数値の活用である。この数値の活用こそが、読者に情報を正確に伝えるうえで重要であることに気付かせたい。児童は、算数「長さ」の学習で、長さの単位や測定の仕方について理解している。また、生活科「花ややさいをそだてよう」でも自分が育てている、ミニトマトの背丈や茎の長さを測定している。これらの経験を生かし、「さけが大きくなるまで」に使われている、「七十センチメートルほどもある大きな魚」「三メートルぐらいのたきでものりこえて」などの表記についても、実際の長さにふれ、イメージ豊かに読み取らせていきたい。

順序を表す言葉として、これまで「はじめに」「つぎに」「それから」「おわりに」の語句は、頻繁に使い児童の中には浸透している。「さけが大きくなるまで」では、順序を表す接続語として「そして」と「やがて」という語句が使われている。この「そして」と「やがて」は、時間の経過を表す接続語であるが、使い分けが難しい。そこで、教師から意図的に発問をし、文の中で「そして」と「やがて」を入れ替えたり、実際に文作りをさせたりするなどし、語彙に関する知識を深め、言語感覚を豊かにしていきたいと考える。

本単元を通して、教師の指示や発問により学びの深化を図りたい項目は以下である。

- ・ 6月教材「すみれとあり」と比べて、文の書き方にどんな違いがあるか。
- ・ 筆者は、なぜ、たまごが生まれるところから書き出さなかったのか。
- ・ それぞれの語句の意味を具体的につかませるための動作化
- ・ 指示語、接続語の役割
- ・ 文末表現の工夫
- ・ 読みを深めるため、教師からのクイズの出題

以上の内容を教師の指示や発問、クイズという形で児童に投げかけて、読み取らせたり、考えさせたりしていきたい。

#### 学習の振り返り（メタ認知）

子ども自身が、自分の学びをメタ認知するための手だてとして、振り返りカードを用意し活用させていく。振り返りカードには、友だちとクイズを出し合って確かめられたこと、新たな気づきなどを書くようにする。対話形式でクイズを出し合い、答え合う活動を通して、「さけが大きくなるまで」についての読み取りが深まったり、広がったりしていることが実感できるようにさせていきたい。

6 指導計画（全11時間扱い）

次	時 間	学 習 活 動	指導や支援の手立て（◇は評価）
第 一 次	1	<p>○「さけが大きくなるまで」を読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>・「すみれとあり」と読み比べて、書き方の違いについて話し合う。</p> <p>・「さけが大きくなるまで」を読んで、一番心に残ったところとその訳について話し合う。</p> <p>・教師が作った「さけが大きくなるまで」クイズに挑戦し、クイズの作り方を知る。</p>	<p>○さけについて、知っていることを話し合わせ、「さけは、どこで生まれ、どのようにして大きくなったのでしょうか。」について読み取っていくことを掴ませる。</p> <p>○「すみれとあり」が、2つの関係について書いた説明文であったのに対し、「さけが大きくなるまで」はさけの成長について書かれた説明文であることを捉えさせる。また、数値が多く表記されていることにも気付かせるようにする。</p> <p>◇「さけが大きくなるまで」クイズ作りに意欲を示している。（学びに向かう力・人間性等）</p>
	2	<p>○本文と写真を照らして読み、文章構成の大体をつかむ。</p>	<p>○写真にタイトルを付けながら、季節の変化に沿って、さけの成長の様子が書かれていることに気付かせる。また、どこから、読み始めても同じ場面に戻ってくることに気付かせるようにする。</p>
	3	<p>○自分の心に残ったところから、クイズ作りに取り組む。</p>	<p>◇主語を意識して、クイズ作りに取り組んでいる。（知・技）</p> <p>◇クイズを作るうえで、問いと答えの関係に必要な語句や文を選び出している。（思・判・表）</p> <p>○クイズ作りは、以後、帯の時間を活用して作るようにさせる。</p>
第 二 次	4 5 6 7 (本時)	<p>○「さけが大きくなるまで」クイズを友だちと出し合いながら、本文を読み深める。</p> <p>・クイズを出し合い、答え合う。</p> <p>・答えを見つけたら、問いの種類に合わせて、本文に色鉛筆でサイドラインを引いて、答える。</p> <p>(例)</p> <p>問い：いつごろ、大人のさけは、たまごをうみに、海から川へやってくるでしょう。</p> <p>答え：秋になるころです。</p> <p>問：大人のさけは、どんなふ</p>	<p>○「秋になるころ」「冬の間」「春になるころ」「海の水になれて（夏以降）」など季節の移り変わりに沿って大きく4つの意味段落で構成されていることから、クイズを通しての話し合いは、相手を変えて4回設定する。</p> <p>○クイズの出し合いは、今回はどの場面と決めずに、児童が興味のある場面の問題を出し合い、答え合うようにさせる。但し、学級全体の話し合いでは、本文全体の読みが深まるよう、今日は、「○○の場面について」というように、教師が投げかけるようにする。</p> <p>○クイズを出し合い、答え合う際には、基本の文型を意識して、問題を読んだり、答えたりするように指示する。「～でしょう。」「～です。」</p> <p>◇時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えて読んでいる。（思・判・表）</p> <p>◇「問い」に対して「答え」に必要な語句や文を選び出している。（思・判・表）</p>

第二次		<p>うに川を上るでしょう。          答え：<u>いきおいよく</u>上ります。  <u>三メートル</u>ぐらいのたきでも<u>のりこえて</u>、すすんでいきます。</p> <p>・学級全体で読み深める。</p>	<p>◇さけの成長に興味・関心をもち、進んで本文を読んでいる。          (学びに向かう力・人間性等)</p> <p>○話し合いでは、クイズを出して、答えて終わりではなく、長さについて、実際にものさしで確認したり、言葉の意味についても、二人で話し合ったりするよう助言する。</p> <p>○クイズの出し合いが終わったら、クイズを出し合って「さけの成長」について更にわかったことを、振り返りカードに書くようにさせる。</p> <p>○指示語や接続語の役割についてや文末表現の工夫、重要な語や文について教師の指示や発問により読み深める。</p>
	8  9	<p>○「さけが大きくなるまで」の写真を使って、さけの成長の様子を説明する。</p> <p>・写真カードに「いつ」「どこで」「どのさけが」「どのように」「なにをしていることろ」を書き込む。</p> <p>・友だち同士で、説明し合う。</p>	<p>○教科書に載っている写真を使って、自分が一番心に残ったところから、成長の順序を説明する。</p> <p>○児童に写真カードをわたし、説明の順序に沿って、並べるようにさせる。</p> <p>◇主語と述語との関係に気付いて、「なにが、どうしている」ところか書いている。          (知識・技能)</p> <p>◇「さけが大きくなるまで」の時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、写真を使って説明している。          (思・判・表)</p>
第三次	10 11	<p>○「さけが大きくなるまで」を読んで、教科書教材では、分からなかった疑問や更に調べてみたいことを調べる。</p>	<p>○「図書館で本をさがそう」(5月単元)で、学習した調べ活動を振り返り、それぞれの疑問や調べてみたいことを調べて、カードに書き留めるようにさせる。</p> <p>◇「さけが大きくなるまで」を読んで、更に調べてみたいことを進んで調べている。(学びに向かう力・人間性等)</p>

## 7 本時の目標と展開

### (1) 本時の目標

- 主語が「大人のさけ」から「さけの赤ちゃん」に変化していることに気付いて、読むことができる。  
 (知識・技能)
- 「さけの赤ちゃんが、どのように成長していくか。」を時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。  
 (思・判・表C ア)
- 「さけの赤ちゃんが、どのように成長していくか。」を説明するうえで、重要な語や文を考えて選び出すことができる。  
 (思・判・表C ウ)
- 「さけが大きくなるまで」に興味・関心をもち、進んで本文を読み、クイズを考えたり、友だちのクイズに答えたりしようとしている。  
 (学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時の学習活動

本時は、『さけが大きくなるまで』クイズを友だちと出し合いながら、本文を読み深める。」言語活動の2回目を展開する。前の時間では、同じ場面でクイズを作った者同士でクイズを出し合った。本時は、お互いに違った場面のクイズを出し合い、読みを広げたり、深めたりさせたい。児童は、単元の第1次で、教師の作った「さけが大きくなるまでクイズ」を参考に自分でも問題を作っている。また、帯の時間を活用して、問題を作りためているだろう。児童の意欲、主体的な学びに重点を置き、どの場面の問題を互いに出し合うかは限定しない。どの問題を相手に出すのかを考えることも、学習への意欲を高めることにつながるだろう。話し合いが互いに高め合えるものになるよう、誰と誰を組ませるかは、児童の実態と作った問題を考慮し、教師の方から意図的に相手を決めていきたい。

学習の前半は子ども同士の対話による学びの時間とし、後半は教師が中心となり、学級全体で読み深め、学びを深化させていきたい。本時は、意味段落3「冬の間、たまごからさけの赤ちゃんが生まれた」場面を中心に読み深めたい。

(3) 本時の展開 (5 / 11)

学習活動と内容	指導や支援の手立て (◇は評価)
<p>1 学習のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・違った場面で問題を作った者同士で、クイズを出し合うことを確認する。</li> </ul> <p>2 クイズの出し方、答え方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつ」「どこで」「何が」「どのように」「どうする」を問う。</li> <li>・答えがわかったら、教科書に色鉛筆で本文にサイドラインを引いて、答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時は、「さけが大きくなるまで」クイズを前回とは違った相手に出したり、答えたりする活動であることを確認する。また、前回とは異なり自分が作っていないクイズが出されることを予想させ、学習への意欲を高めるようにする。</li> <li>◇友だちとクイズを出し合うことに意欲を示している。(学びに向かう力・人間性等)</li> <li>・前時の学習を振り返り、クイズの出し方、答え方を確かめるようにさせる。</li> <li>・クイズを出し合い、答え合う際には、基本の文型を意識して、問題を読んだり、答えたりするように指示する。「～でしょう。」「～です。」</li> </ul>
<p>「さけが大きくなるまで」クイズを、友だちと出し合おう。</p>	
<p>3 友だちとクイズを出し合う。(15分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらが先に問題を出すか、相談して決める。</li> </ul> <p>(例)</p> <p>問い「いつ、たまごからさけの赤ちゃんが生まれるでしょう。」</p> <p>答え「冬の間です。」</p> <p>問い「川を下ってきたさけの子どもたちは、1か月ぐらいの間に、どのくらい大きくなるでしょう。」</p> <p>答え「八センチメートルぐらいの大きくなります。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題は、文のどこから出しても良いこととする。</li> <li>・互いに交代して、クイズを出したり、答えたりするようにさせる。相手が答えられないときには、どの場面の問題なのか、ヒントを与えてもよいこととする。</li> <li>・話し合いでは、クイズを出して、答えて終わりではなく、長さについて、実際にものさしで確認したり、言葉の意味についても、二人で話し合ったりするよう助言する。</li> <li>◇時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えて読んでいる。(思・判・表)</li> </ul>

<p>問い「さけの子どもたちは、大人になる前に何に食べられてしまうでしょう。」</p> <p>答え「さめやあざらしなどに食べられてしまいます。」</p> <p>4 振り返りカードに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズを出し合って、よかった点やさけについてわかったこと、また、調べてみたいことを書く。</li> </ul> <p>5 学級全体で読み深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意味段落3の問題を作っている児童からの出題に答える。</li> </ul> <p>(例) 予想される児童からの出題</p> <p>問い「さけの赤ちゃんのおなかには、何がっているでしょう。」</p> <p>答え「赤いぐみのみのような、えいようの入ったふくろがついています。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の発問により読みを深める。</li> </ul> <p>「冬の間、さけは、何から何に成長するでしょう。」(赤ちゃんから、小魚へ 子魚ではない)</p> <p>「赤ちゃんは、えいようの入ったふくろがなくなるまでに、どの位成長するでしょう。」</p> <p>「3センチメートルから4センチメートルだから、1センチメートル成長します。」</p> <p>「その時は、とありますが、その時とは、どの時でしょう。」「たまごから生まれた時です。」「やがて」と「そして」は、どう違うでしょう。</p> <p>6 次時の予告をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回も、今日と違う相手と出題し合うことを知る。</li> </ul>	<p>◇「問い」に対して「答え」に必要な語句や文を選び出している。(思・判・表)</p> <p>◇さけの成長に興味・関心をもち、進んで本文を読んでいる。(学びに向かう力・人間性等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とクイズを出し合って、楽しかったことや、さけについてわかったこと、また、更に調べてみたいことなどを振り返りカードに、感想形式で記述させるようにする。</li> </ul> <p>◇クイズを出し合って、わかったことや、更に調べてみたいことを書いている。(学びに向かう力・人間性等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級全体では、意味段落3「冬の間、たまごからさけの赤ちゃんが生まれた」場面を中心に読み深めるようにさせる。</li> <li>・意味段落3の問題を作っている児童に出題させ全体で「さけの赤ちゃんの成長」について読み深める。</li> <li>・動作化により、赤ちゃんのおなかにふくろが付いていることを具体的にイメージさせるようにする。</li> <li>・意味段落3では、主語が「大人のさけ」から「さけの赤ちゃん」に変化したこと、更に、「小魚へ」と変化していることを掴ませるようにする。また、文章全体でも主語が変化していることに気付かせたい。</li> <li>・数値を具体的に掴ませ、数値が示されていることで、より具体的に内容が伝わることに気付かせる。</li> <li>・指示語や接続語の役割と効果について、言葉を入れ替えて、気付かせるようにする。</li> </ul> <p>◇教師の「問い」に対して「答え」に必要な語句や文を選び出している。(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズを出し合ったり、みんなで読んだりして「さけが大きくなるまで」がより詳しく読み取れたことを確認し、次時への意欲付けを図るようにする。</li> </ul> <p>◇次時も、クイズを出し合うことに意欲を示している。(学びに向かう力・人間性等)</p>
--	--